



うみやまかわ新聞

事業名：海と地域のつながりを見つける「うみやまかわ新聞」の制作（日本財団海洋教育促進プログラム）

中間報告書

2015.8.26

特定非営利活動法人離島経済新聞社作成

<目的>

これまで離島経済新聞社が培ってきた「他者・他地域との連携促進」「ICTの利活用促進」「日本を広く捉える観点の醸成」「自らが暮らす地域への誇りの醸成」といった施策実績とそのノウハウを用いて、「海」を起点に「山」「川」へとつながり、再び「海」へ還る「海」「山」「川」の水のつながりを元に、山・川も含めた自然環境や文化、歴史、経済など、多角的かつ包括的な視点から各地域における「海」の重要性を学び、地域を担う人材育成につながる海洋教育の機会創出とその実施を目的とする。

<目標>

- ・メディアの制作過程で「地域取材する（掘り下げて研究する）」作業を重ねることで、自らが暮らす地域における「海」との関わり、その重要性を見つめ直し、新しく学ぶこと。
- ・文化、歴史、環境、食など、さまざまな事柄と密接に結びつく海洋教育の必要性を広く訴求する。
- ・チームでの活動により「他者との連携」「ICTの利活用」を身につける。
- ・「他地域との連携」により「日本を広く捉える観点」を養う。
- ・「うみやまかわ新聞」の反響により、事業にかかわったことへの誇りを醸成する。
- ・成果物を国内の教育機関へ送り届けることによって「海」「山」「川」でつながる「日本のつながり」を啓蒙する。

<総合的な学びを得られる学習プログラム>

「うみやまかわ新聞」は小学校高学年を対象にした教育プログラム。地域学習やキャリア教育としても最適な総合学習プログラムとして、各地域の教育機関・団体・民間コーディネーターの協力のもと、離島経済新聞社のスタッフなど、プロの編集者を講師に、子どもたちが新聞づくりを実践します。

<企画意図>

日本は6,852島からなる島国であり、領海およびEEZ（排他的経済水域）は世界6位規模という海洋国家。

本土5島と418島の有人離島には多様な「海」「山」「川」があり、歴史や文化を醸成してきた「水のつながり」があります。

島国に暮らす人々は皆、それぞれの地域にある「海」「山」「川」から「恵み=幸（さち）」や「つながり」といった恩恵を受けながら生きているといっても過言ではありません。

いま、島国の20～30年後を見据えたとき、存続の危機に立たされている地域は少なくありません。

しかし、日本各地にある、多種多様な自然や文化に含まれる「恵み」や「つながり」は、そのものが島国の価値であり、土地土地に暮らす人々の「誇り」や「愛着」の源になるものです。『うみやまかわ新聞』は島国の未来を担う子どもたちが、自分の暮らす土地にある価値を認識し、島国の価値である多様性を総合的に学べるよう

「うみやまかわ」をテーマに新聞づくりを行う総合学習プログラムとして企画いたしました。

<本学習プログラムを通して得られる6つの学び>

1.多面的・総合的にものごとを見て、考える力

社会を多面的に捉える「新聞」をつくる過程で、ものごとをさまざまな角度から総合的に見る力（広い視点）や考える力を養うことができます。



2.自然や人とのつながりを尊重する心

身近にある自然（海・山・川）と他地域の自然を比べることで、自然や人とのつながりを尊重する心を育むことができます。



3.地域や国に対する愛着と誇りの育成

プログラムに参加する他地域との交流を通して「他を知り自己を知る」ことで、地域や国に対する愛着と誇りを育むことができます。



4.他者と協力するコミュニケーション経験

一緒に新聞をつくるチーム、他地域の生徒、講師陣、地域の大人といったさまざまな他者と協力しながら新聞づくりを進める経験により、コミュニケーション力を養うことができます。



5.ICTを活用したプロジェクトを実践する経験

パソコン、タブレット、テレビ電話などの情報ツールを使用し、ICTを活用したプロジェクトに参加・実践することで、専門的な経験や知識を養うことができます。



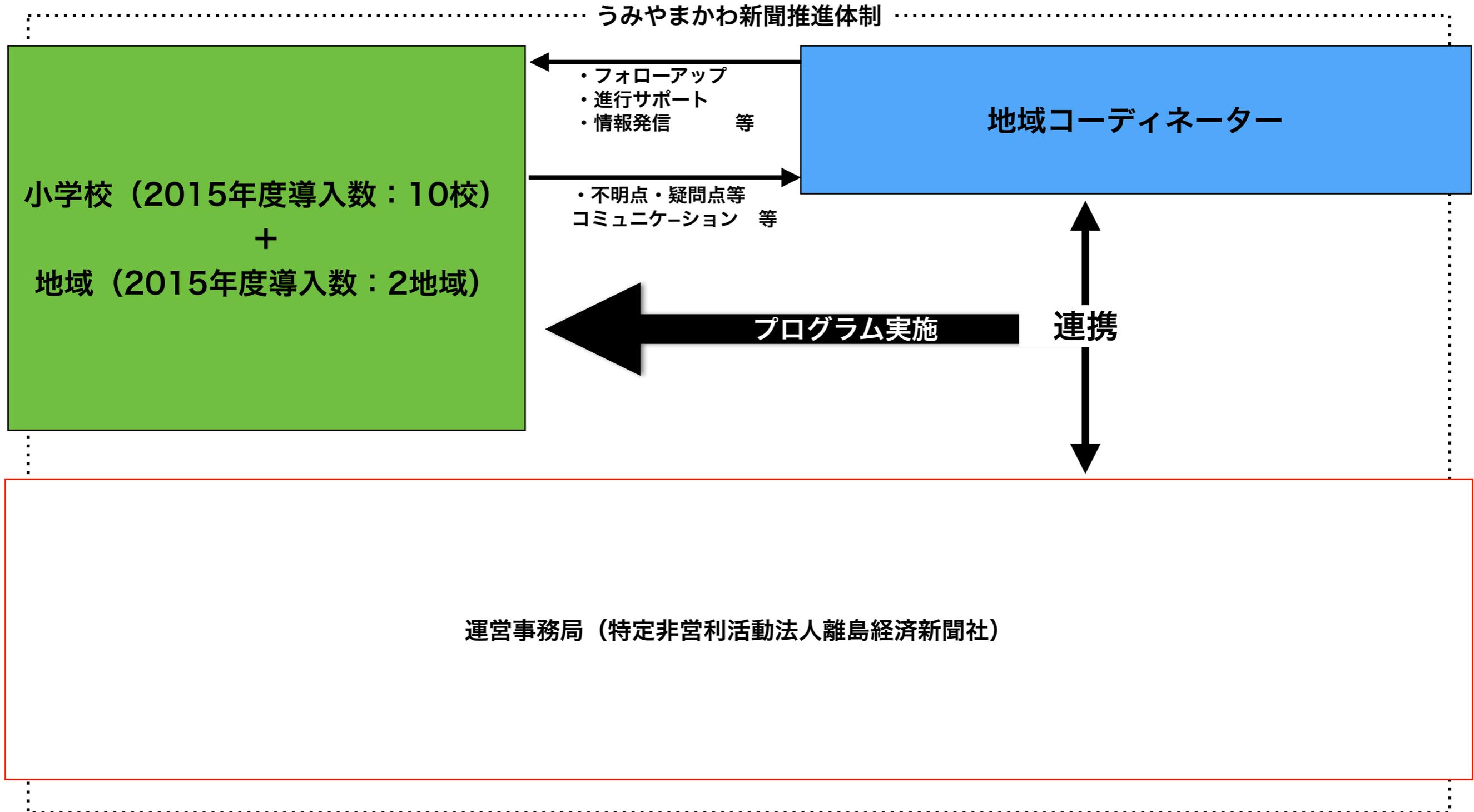
6.情報の基本知識（メディアリテラシー）

情報メディアの基礎である「新聞」づくりをプロに学ぶことで、社会のなかでどのように情報がつくられ伝わっていくかという「情報の基本知識」を得ることができます。



<体制図>

事業実施にあたり、以下の体制図を元にプロジェクト推進体制を構築。



<年間進行スケジュール>

スケジュール	学校	地域コーディネーター	運営事務局	プログラム内容
2015/4月	<ul style="list-style-type: none"> 導入確定 時間割/カリキュラム確定 	教科書等の共有	<ul style="list-style-type: none"> 事業基盤整備 実施プログラム基盤整備 	全体カリキュラム策定 (教科書、その他ツール類制作)
2015/5月			情報発信基盤整備 (WEB)	
2015/6月		地域コーディネーター研修 (1泊2日or2泊3日) ※5月後半~6月上旬を予定		
2015/7月				
2015/8月				
2015/9月				
2015/10月		プログラム実施期間 (6月後半~1月) ※各学校のスケジュールにより、開始時期は前後します。	広報・PR 情報発信	学習1~7実施
2015/11月				
2015/12月			デザイン 期間	
2016/1月			印刷期間	
2016/2月			発表会 (2月第1週~第2週) 展示会 (発表会から1週間程度)	
2016/3月			配布・振り返り 期間	

2015.8.26

<導入営業ツール>

導入に向けた営業活動として、プログラム詳細が分かる資料（A4/4P）と、各単元に必要な時間振り分け数などをまとめた資料（A4/4P）を制作。
導入希望地域に対して、細かい実施内容やカリキュラムの組み方を明確に説明することで、小学校に対して導入しやすい提案を実現。

プログラム詳細資料



時間振り分け数資料



2015.8.26

<導入小学校・地域>

全国12カ所の10校（小学校）と2地域が本事業を導入。

【導入小学校】

小学校の授業として、総合学習の時間を活用し、先生方の協力のもと実施します。

- ・千葉県いすみ市立太東小学校（6年生／29名）
- ・千葉県富津市立金谷小学校（4・5年生／15名）
- ・東京都江戸川区立二之江第三小学校（6年生／38名）
- ・山梨県北杜市立高根西小学校（5年生／26名）
- ・兵庫県姫路市立家島小学校（5年生／16名）
- ・高知県佐川町立尾川小学校（5・6年生／13名）
- ・愛媛県上島町立弓削小学校（6年生／18名）
- ・長崎県対馬市立豊小学校（5・6年生／8名）
- ・大分県日田市立津江小中学校（6年生／9名）
- ・沖縄県うるま市立津堅幼少中学校（3・4・5・6年生／9名）

【導入地域】

地域のNPOや教育委員会等が受け入れ先となり、校外活動として実施します。

- ・北海道利尻島（利尻町教育委員会が受け入れ 1～6年生／30名）
- ・長野県木曾町（木曾町農林振興課職員が受け入れ 4・5・6年生／7名）

※小学校・地域のどちらの導入でも内容に差異が生じないように、小学校の45分一コマの授業時間枠を基本として実施します。

<授業カリキュラム>

全20時間を目安に下記7項目のカリキュラムにて授業を実施します。

1学期終了時点で、各校・地域が学習3～4までを消化。

1.新聞づくりを学ぶ

情報の基本を学ぶ／ツールを学ぶ／チームを組む

2.島国の多様性を理解する

広い地球、日本、身近な地域の多様性を知る

3.地域の「うみ」「やま」「かわ」を調べる

地域の「うみ」「やま」「かわ」をリサーチする／見つけた内容をまとめて発表する

4.新聞づくりを実践する（その1）

新聞にどんな内容を書けるかを決める／どのように取材を進めるかを決める

5.新聞づくりを実践する（その2）

取材の準備をする／取材に出かける／写真を撮る／原稿を書く／校正をする／デザイナーに依頼する／印刷する

6.新聞づくりを実践する（その3）

できあがった新聞を配る／できあがった新聞をインターネットで公開する／学んだことを発表する

7.新聞づくりを通して島国の多様性を学ぶ

各地の新聞を見比べて島国の多様性を学ぶ／新聞を見比べて学んだことを発表する

<おもな使用ツール>

円滑かつ、わかりやすい授業を実施するべく、独自に教科書・運営マニュアルを制作。

教科書は生徒・先生・地域コーディネーターに、運営マニュアルは地域コーディネーターに配布し、授業運営を行います。



(左) 教科書「うみやまかわノート」

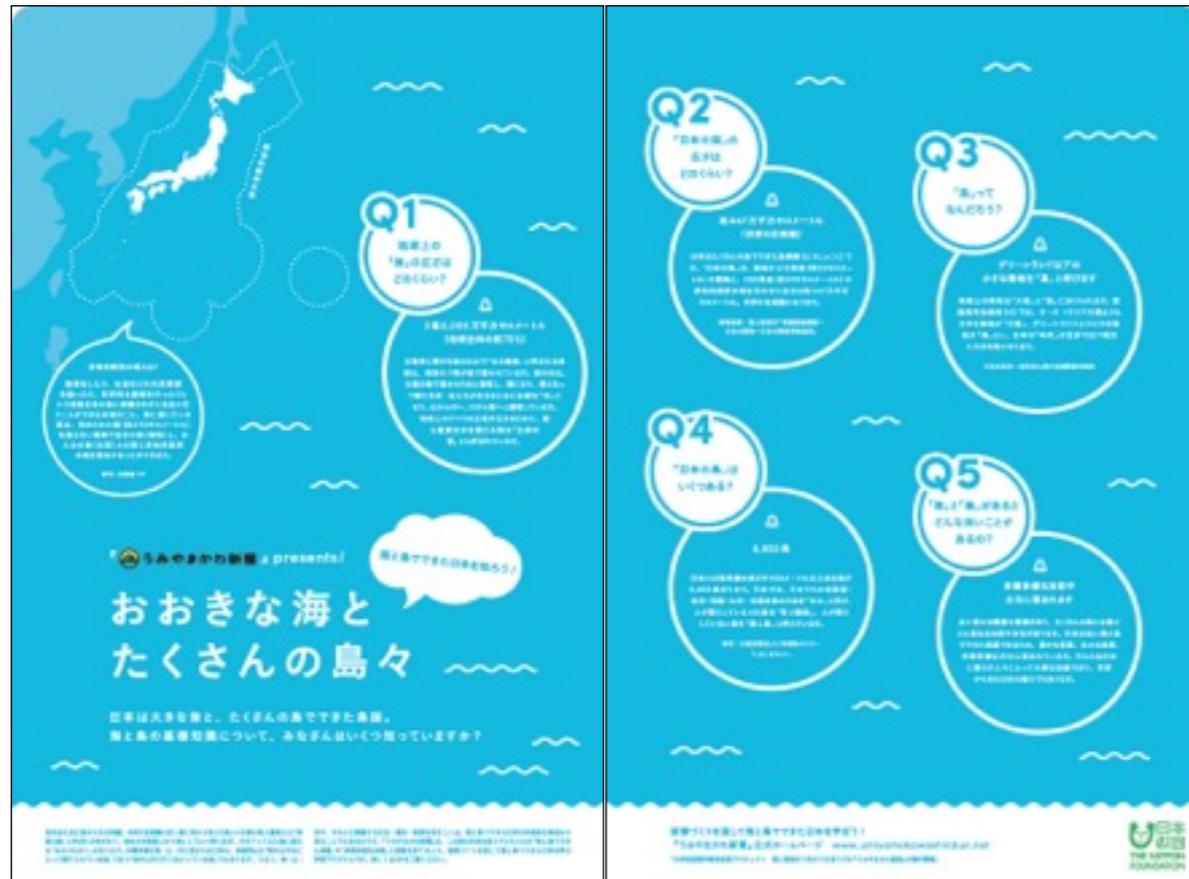
(下) 運営マニュアル「進行管理マニュアル」



その他（広報・PRなどについて）

＜おもな制作物＞

季刊ritokei（リトケイ）13号・14号にて広報・PRを目的に広告掲載。



季刊ritokei（リトケイ）13号

季刊ritokei（リトケイ）14号



2015.8.26

特定非営利活動法人離島経済新聞社作成

<前半授業進捗について>

6月からスタートした授業では、夏休みまでの間で、新聞づくりの土台となる情報の基本や、使用ツールなどを学び、地球・日本・各地域の特色を考え、地域ごとに「うみ」「やま」「かわ」に関わるものごとを抽出。テレビ電話を使用した授業方式や、他地域の生徒・地域コーディネーター・運営スタッフなど、普段接することのない人たちとのコミュニケーションが必要とされるため、スタート当初は生徒たちにやや戸惑いを感じられたが、回数を重ねるごとに主体的に関わる姿勢が見られるようになった。前半授業ではどの地域もスケジュール通りに進行できており、事前実施計画からの変更もなく順調に進行管理ができています。

<導入校の先生・地域コーディネーターの声>

千葉県いすみ市立太東小学校・地域コーディネーター

「画面越しの先生にまじまじと見入り、遠くの小学生の自己紹介にじっくりと聞き入る。ときどき集中力が切れてしまうこともあるけれど、教室全体がワッ！とすごい勢いでまとまる時もある。そんな子どもたちとの時間はいつも新鮮。これからも子どもならではののみずみずしい言葉が生まれる瞬間を見届けるのが楽しみです」

高知県佐川町立尾川小学校・先生（担任／教科主任）

「テレビ電話会議がとても新鮮で、子どもたちはみんな喜んで授業に臨んでいます。また新聞記事作成に向けての体験活動がとても楽しく、自分たちが生まれ育った地域を見直すよい機会となっています。2学期は遠く離れた他の学校と交流するテレビ電話会議を使った授業が待ち遠しく思っています」

沖縄県うるま市立津堅幼少中学校・先生（担任）

「新聞づくりを通して子どもたちに期待することが2つある。1つは、島の自然・伝統文化・島民の生き方等から、自ら課題を見つけて調べ学習を行う過程で、郷土を愛する心を育ててほしいこと。もう1つは、他県の児童との交流を通してコミュニケーション能力を高めてほしいことだ。今後の学習展開が非常に楽しみである」